

第9回

会員向け研修会 開催

12月8日(日)に広島市の広島YMC国際文化センターにおいて、「第9回会員のための研修会」を開催し、広島大学大学院教育研究科(言語文化教育学専攻)教授の佐々木勇先生の講演を拝聴しました。

■ 講演の部 ■ 要旨

広島大学大学院教育研究科(言語文化教育学専攻)

教授 佐々木 勇 先生



常用漢字表に見る日本語の歴史

近年の情報機器の急速な普及を背景に改定された「改定常用漢字表」内の「基本的な考え方」では、「情報機器は『読み行為』よりも『書く行為』を支援する役割が大きい。(略)その意味で、情報化社会においては、これまで以上に『読み手』に配慮した『書き手』になるという注意深さが求められています。本日は、読み手に配慮した漢字音を使用した鎌倉時代の親鸞の話をしたいと思います。

その前に古代東アジアの漢字字体および親鸞の漢字字体の特異性についてお話しします。古代中国では、常用漢字表のように規範的な字体を示した『顏氏字様』『干禄字書』『開成石經』などの字様書と呼ばれる書物が多く編纂されました。日本には字体に特化した辞書はありませんが、漢和辞典である『類聚名義抄』は『干禄字書』の字体を引用しています。有名な『康熙字典』の刊行後は、日本の漢字字体も次第に『康熙字典』の字体(康熙字典体)に近づいていきました。改定常用漢字表の字種で()に入っている字(「旧字体」と呼んでいるもの)は康熙字典体です。

漢字字体の研究は近年急速に進展した分野ですが、例えば平家納経の同一巻内の字体でも、内題は正字で、経本文は略字・通字であるなど、個々の漢字字体については不明な点が多く残っています。そんな中で、親鸞の書いた漢字の字体はきわめて特異なものでした。親鸞は、宋版の漢字字体や、『干禄字書』の正字字体を多用しています。このような字体を使用した文献は、親鸞遺文以外には見られません。

次に漢字音について考察します。日本の漢字音は、吳音・漢音・唐音などに分けられます。そして、それぞれの体系内に、例えば同じ時代の同じ吳音であっても、本来の中国語音にどれだけ忠実かによって、発音に差異があると考えられます。これは、現代日本語における英語音の発音の実態と同様です。例えば「Sweet」という、末尾が子音という日本語にはない発音の単語を読む際に、①出来る限り英語原音に近い発音をするもの(Sweet)、②本来無い母音を挿入しつつも英語原音を残そうと発音するもの(Sw霎イツ)、③日本語と変わらない発音をするものの(Sweet)の3種類に分けられます。それと同じ状態が、鎌倉時代の呉音にも想定できます。

この音の差異を証明するにあたり、漢字の音にフリガナを打っていた親鸞遺文が絶好の資料群となります。親鸞の自筆文献には、現代中国語の四声と同じく、漢字のアクセントを示す「声点」を加点したものがあります。親鸞は声点のうちの「入声点」をさらに「清急」「清緩」「濁急」「濁緩」の4つに分類し、『觀無量寿經』内において示しました。この『觀無量寿經』は漢文を音で通読した文献つまり、漢文を当時の中国語で読んだ文献です。中國語の発音に忠実にするため、語尾の子音のあり方にまで気を配り厳格に区別していることがうかがえます。

では漢文を訓読している文献はどうか。親鸞の代表作とされる『教行信託』は、入声に急・緩を区別しない声点形式を用いています。訓読の際は、その発音を取り立てて示す必要はないと思ったのでしょうか。そして、平易を旨とした漢字交じり片仮名文や仮名を主とする文献には声点を書いていません。人々アクセントそのものが無用であると考えたのでしよう。

親鸞は、文献の性格・読者を考えて書かれたこのような文献には、漢字のアカセントそのものが無用であると考えたのでしよう。



第5回

漢感興起

かんかんこうき

（巷に生きる漢字あれこれ）

「観感興起」…目で見、心に感じ、感動して奮起すること。
(漢検四字熟語辞典より)

さまざまな立場を通して感じる、またそれぞれの角度から観ると、漢字の姿は一様ではないようです。このコーナーでは、漢字や日本語に特別な想いを抱きながらお仕事をされている方を取り上げ、その人ならではの「漢字模様」について伺います。

今回は、日本経済新聞社記事審査部の小林肇さん。ネットワーク会員でもある小林さんが新聞記事の校閲を通して見た日本語の姿に迫ります。

——「校閲記者」とは、どのようなお仕事をされているのでですか？

一般の方がイメージしている新聞記者とは、経済部なら経済のニュースを、運動部ならスポーツのニュースを取り材して記事を書くということでしょう。しかし校閲記者は、いろいろな部署の記者が書いた記事に誤字・脱字がないか、固有名詞や事実関係に誤りがないかなどを点検する専門の記者です。どんなに凄いニュースでも誤字があれば、また、まったく誤字のない記事でも内容に誤りがあれば、新聞は信用を失ってしまいます。読者

の皆さんに読みやすく誤りのない情報が届くよう目に光らせる役割を担つてゐるわけです。記事は一度読んだら終わりというわけではなく、ニュースですから刻々と内容が変わることもありますので、その度に何回も読み返しています。

——具体的にはどのようなポイントを確認されるのでしょうか。

新聞は、現代の国語を書き表すための基準とされる「常用漢字表」「現代仮名遣い」「送り仮名の付け方」を中心に表記しています。その規則通りに記事が書かれているか、日本語として誤っていないなどをチェックしながら読み進めます。並行して人名・地名・社名などの固有名詞や事実関係を、各種資料や記事データベースを活用し、審査しています。特定商品名(登録商標)を一



般名詞のように使つていなか注意することも必要です。たとえば「宅急便」はヤマトホールディングスの登録商標なので、「一般名詞の『宅配便』」としなければなりません。「万歩計」も「歩数計」と言い換えるなどしています。

昔は、記者が書いた原稿をもとに活字を拾い、新聞の紙面を組んでいたので、形の似ている字が誤つて使われることがありました。現在は記事をパソコンで書いているので、代わりに同音異義語の変換ミスが増えたと思

われるでしょう。もちろん変換ミスもありますが、記者の思い込みや勘違いによって誤字が発生することがあります。例えば記者が「諭旨解雇」の「諭旨」を「論旨」と間違えて覚えていた場合、そのまま入力されてしまうことがあります。他にもプロ野球選手の「年俸」を「年棒」と、両国国技館のある地名

「横網」を「横綱」とそれぞれ誤認しているようなことがありました。記者も1000人以上いればいろいろな間違いが出てきます。活字の拾い間違いと同じようなミスがどこかに潜んでいる。形が似た字を正しく書かれていると思って読んでしまい、見落としやすい。そういうものも意識し、ミスのパターンを頭に入れておく必要があるのです。

——高度な技術を要求されますが、どのようにスキルアップされたのですか？

日本語に関する本を読んで情報を仕入れたり、仕事をしながら覚えていつたりしました。自分ができる仕事をの範囲には限りがあるので、いかに他人の仕事の経験を共有し、それを自分の知識にしていくかが大事だと思います。他人の間違った経験を知り、同僚にも伝え、コミュニケーションを取りながら仕事をしないと、同じようなミスをくり返しかねません。そうなると新聞の信頼を守れませんからね。

——新聞に使われる漢字の範囲について、詳しく教えて下さい。

新聞は読者層が広いので、共通した表記の基準が求められます。ですので、基本的に常用漢字が用いられておりますが、表外漢字でも「絆」など読者に分かりやすい字だつたら用いることもあります。また、地名・人名などの固有名詞が表外漢字であればそのまま使い、ひらがなで表記するということはありません。

新聞で使われる漢字の90%以上は常用漢字ですが、ならばそれ以外の数%の漢字にはどのようなものがあるのか、仕事を兼ねた趣味というか趣味を兼ねた仕事というか、調査をしたことがあります。対象をさらに絞り込んで「JIS第1水準、第2水準以外の漢字」つまり漢検でいうと「1級を超えた漢字」が新聞で実際にどんな使われ方をしているのか、用例を8ヶ月間集めました。

——紙面に現れるJIS第3水準以上

の漢字を調べられたとのことですね。
それは面白そうです。どのようなこと
が見えてきたでしょうか？

全体の9割が固有名詞で、7割は日本を除くアジア関係のものでした。なかでも一番多かったのが「圳」。多くは中国の都市「深圳」に関わるもので、地名のほか取引所名が目立ち、社名には日本との合弁企業の名前も多く見られました。中国の経済発展を象徴する字なんでしょうね。



愛用の辞書や用語集。

——日経電子版で「ことばオンライン」という連載記事を書かれていますが。

記事を書かない記事審査部が、読者の方々の日本語や漢字、言葉に関する疑問に答えるという趣旨で、このコーナーは始まりました。記事審査部は言葉に関する

専門部署もありますし、日頃の仕事で得た知識・経験を皆さんにお伝えし、新たな言葉の面白さを見つけていただきたい。また、仕事を通して知り合った日本語学研究者の方々の研究を多くの人に知つてもらおう意味で、その良さや面白さを伝える橋渡し役も担いたい。「学術×報道」が「ことばオンライン」の役割だと思っています。

——このお仕事の面白いところ、難しいところを教えて下さい。

楽しいところは、日々ニュースに接しながら

面白いものとしては創作漢字を商標にしたものですね。

岡山の製麺会社の商品で使われた字でしたが、「麸」で「こめぎ」と読ませるそうです。地元産の米粉と小麦を使った麺で地産地消の商品でした。同様の例は京都の一澤信三郎帆布の商標である「梶」の「かばん」も有名ですが、商品の特徴を創作漢字で表した商標が今後も増え、紙面に現れてくるかもしれません。

がら日本語や漢字に関わり、学べることでしようか。1つの言葉について辞書を20冊くらい引いて何十分も考えることがある。それがまた楽しい。生きた日本語と向かい合えるのがいいのかもしれません。

難しいところは、やはり言葉は変化しているということがある。それがまた楽しい。生きた日本語と向かい合えるのがいいのかもしれません。

難しいところは、やはり言葉は変化しているということがあります。この変化の過程を見極めながら、その言葉を使用するかしないか瞬時に判断しなければいけないことがあります。例えば「雨模様」には複数の意味がある。「今にも雨が降り出しそう」なのか「雨が降つたりやんだり」なのか。読者は新聞を読んだだけではわかりません。だから「雨模様」は新聞では使わないようになります。とが。「真逆」「後ろ倒し」という言い方はまだ市民権を得ていのではないか。年代によつては嫌がる人がいる。ならばわかりやすく「正反対」や「繰り下げ」と言い換えるべきではないか、などです。

最も難しいのは、こういった揺れのある表現が政治家やスポーツ選手の談話の中で出てくることです。例えば「ら」抜き言葉が出てきた場合。地域によつては「ら」抜きで、受け身と可能を使い分けていることもあります。表現がその人らしさを表すのなら、単純に直すわけにはいかないでしょう。ではそれを読んだ人はどう思うのか。立場によつて言葉の正誤の基準は変わりますので、読者層の広い新聞としては難しい判断をしなければいけないことが多いですね。ニュースを扱っている以上、締め切りがあり、これらの判断はなるべく早くしなければなりません。記事審査部だけではなく、記事を書いた記者やデスクと相談してより適切な表現を探しています。

——ここで悩んだ言葉が定着していくかもしませんね。

例えば「消費増税」という表現。1997年の消費税率引き上げの際には、「消費増税」という言い方はしないのではないかということで「消費税増税」「消費税率上げ」などと表記していました。しかし現在この表現はかなり定着し、今年4月からの消費税率の引き上げについて「消費増税」という表現を用いた報道の数も増えています。当時は違和感を持っていた言葉も、時間を経て定着していくことがあります。

——まさしく言葉が生き物であることが実感できますね。

——小林さんは第2期漢字教育サポートー育成講座を受講されていましたが、その知識はどのようにお仕事に活かされていますか？そもそも漢検を受けられたきっかけは？

漢字が好きなんですね。校閲記者になった理由の一つでもあります。新聞表記の基準はやはり常用漢字ですので、新聞に関わる者としてはまず2級に合格してそれ以上の級も取れればいいと。記事審査部にも1級・準1級の取得者がいます。漢字教育サポートー育成講座は漢字の歴史を学ぶということに尽きます。新聞表記と国の国語施策とは密接に関係していますので、特に漢字表や文字コードの歴史・変遷についての講義はよい復習となりました。

——今後、記者もしくは漢字教育サポートーとしてやりたいことがあれば教えて下さい。

ここ数年、校閲記者の仕事の領域が広がってきました。言葉に関する記事を書いたり、それらをまとめて出

——それでは最後

に、小林さんの

お仕事を表す漢字

——文字を教えて下さい。

版したり。また、日経ビジネススクールや大学で講義や講演をすることがあります。読者の方々と接点を持つ機会が増えました。新聞用語や漢字の話が中心ですが、講演をするからには取材のほからいいろと勉強もしていかなければなりません。漢字教育サポートー育成講座

で学んだことを踏まえながら、今後も漢字や日本語を通して新聞の面白さについて皆さんにお話ししたり一緒に考えたりしていけばいいですね。

——お仕事をするなかで大切にされている考えは？

校閲記者は「最後の記者であり、最初の読者」と言われます。このバランスをしっかりとっているつもりでも、いつの間にか意識が新聞の作り手側に傾いてしまうことがあります。第三者の目で記事を読んでいるつもりでも、いつの間にか意識が新聞の作り手側に傾いてしまうことがあります。記事を理解しよう理解しようとして、物分かりのいい読者になってしまふ、これではいけません。一読して分かりやすい表現かどうかを第一に考えることが大切です。そして、気になることは調べる、知っていることを確認する。このくり返しが経験となり、知識となっています。

インタビュー後記

新聞の校閲はまさに職人技。時間に追われながら、文字の誤りのみならず内容に至るまで、様々な角度から記事をチェックしなければなりません。さらに、紙面で扱われる言葉も時代を反映してめまぐるしく変化していきます。経験と広い知識抜きにはできないお仕事ですが、小林さんの「他人の経験を知り、自分の知識にしていく」という謙虚さ、そして日々努力して日本語力、漢字力の研鑽に励んでいらっしゃる真摯な姿がとても印象的な取材でした。



故事・成語・諺 穴埋めパズル

クイズ作成者 長野県 森田さん

□にあてはまる漢字を選択肢から選び、故事・成語・諺を完成させてください。
最後に残った漢字一文字は何でしょう？

選択肢
鎬 脍 榄 尾 瓢 鑄 组 蜗 目
鴛 駒 錐 鰐 囊 鶩 篠 瘤 身



- 1 □の契り
2 □の殻
3 □をかむ
4 □中の□
5 □が上がらない
6 □を削る
7 □から□
8 □の上の□
9 □に□が付く
10 □から出た□
- 残った漢字：□

芥川賞受賞作。中卒の作者の自己体験に基づく、中卒19歳の日雇い港湾労働者の主人公が、「こいつ、ホントに中卒か!？」といふくらい、カタカナ外来語を使わず、漢語を駆使した物言いをするのが、おもしろい。しかも、その漢語たるや、冒頭の「曩時」にはじまり、狷介、黽勉、莞爾、奢侈、邂逅、慨然、孜孜、狡猾、無聊、滔滔、僥倖、さらに憚い、些か、恰も、嗤う、塩梅、遮二無一…、と漢検1級漢字のオンパレード。これらの理解なくして、本文は読み解けない。これは、漢検上級合格者のみが知り得る、作者の深奥なのではないか。

—角川小辞典2 漢字の用法—

角川書店

1976年 武部 良明著

同音異義、同訓異字の使い分け辞典。国語辞典、漢和辞典では、十分な解答を得られない、曖昧な漢字（とくに同訓異字）の使い分け一例（例えば、「温かい」（そのものの全体の温度が高い）と「暖かい」（体温の全体で感じる温度が高い）の違い）に明解な説明と豊富な用例で答えてくれる。さらに、用字辞典では扱われない旧表記（例えれば、「恰も」（ちよつどそのときになるようす）と「宛も」（よく似た事物を例に出して、それと同じようになるようす））も扱っている。漢検上級者には、うれしい。古書市場で廉価で入手可。

会員お薦めの書籍

紹介者 宮城県 佐竹さん

2011年 西村賢太著
新潮社

漢字教育サポーター活動ご紹介

Vol.1

全国の漢字教育サポーターの活動をご紹介します。
漢字教育サポーター紹介制度の情報は、漢検ホームページからもご覧になれます。

<http://www.kanken.or.jp/kanken/supporter/>

複数のサポーターが協力して講座を開講

兵庫県 永田 信生さん、

見方 須賀子さん、井藤 敬三さん
(永田さんにインタビューしました)

——どのような活動をされていますか？

3名のサポーターが講師となり「おもしろ漢字講座」と題して、60歳以上の方々を対象に月2回、60分の講座を2回ずつ、合計2時間開催しています。

——開講のきっかけは？

神戸市の情報誌に、漢字講座の講師を募集している旨のお知らせが掲載されました。そこで、私と同じ地域に住んでいるサポーターの井藤さん、見方さんと連絡を取り合い、一緒に応募したことがきっかけです。

——講義はどういう形式で進めていますか？

1回の講座を講師2人がそれぞれ解説したり、残りの時間は検定問題の練習をしています。講座で話をするテーマは講師ごとに異なり、井藤さんが「白川文字学」、見方さんが「論語」、そして私が「漢字の一般教養」です。私自身、漢字を勉強してはじめて字源を知ることの面白さに気づいたので、「このように漢字を習えばよく理解でき面白かったた



(左から) 井藤さん、見方さん、永田さん
マイタウン2013年9月号より

——講師をしてみての感想を教えて下さい。

——全國のサポーターへ
せんにメッセージをお願いします!

「だろうな」という視点を大切にして、漢字の音読み・訓読みから漢字の成り立ち・旧漢字などについて説明しています。

——生徒さんの反応は？

みなさん毎回、講座を興味津々と聞いてくれています。「漢字の講座」と聞いてもイメージがつきにくいのか、漢字を書いて覚えさせるだけだろうと思っていた生徒さんもいたようです。でも字源などの解説をすると、普段何気なく使っている漢字の違った側面が見え、新鮮に感じられたとのことでした。生徒さんの中には、この講義をきっかけに自主的に漢字の勉強を始めたという方もいらっしゃいます。

はじめは一人だと不安ですし、積極的な営業活動もやりにくいくらいと思います。そんな時は数名で集まって活動してみるのも良いのではないかでしょうか。そうすると、講義資料を作るときも、講師として経験を積むときも、チームで行えるのでたいへん心強いです。また、生徒さんの関心を高める授業をつくるために、講師同士研鑽しあうこともできます。そして自信がついたら一人で活動できるようになるでしょう。私もいすれは一人で若い人向けの講座を持ちたいと思っています。

漢字同好会メンバー！仲間募集板

初めて連絡される場合は、漢検生涯学習ネットワーク会員通信をご覧になつた頃を必ずお伝え下さい。

● 北関東（3県）にお住まいの準1級合格者で1級合格を目指している方。1級の勉強方法等でお役に立てるかも知れません。お気軽に連絡下さい。

● 漢字教育サポーター第1期生、23歳女です。漢字検定1級合格に向けて勉強しています。現在、静岡漢字朋友会に所属しています。メールorツイッターでお願いします。

メール: xanxus-usagi@docomo.ne.jp
ツイッター: izanami0825

漢字同好会からのお知らせ

全国の漢字同好会の情報は、漢検ホームページからもご覧になれます。
<http://www.kanken.or.jp/project/edification/associations.html>

北海道漢字同好会

新潟漢字同好会

漢字塾

日時 平成26年2月15日(土) 13時～16時
 場所 札幌市中央区北2条西7丁目
 容器 一級・準一級、二級の三つのグループに分かれます。漢検対策として一般の方々も参加することができます。

漢遊会

日時 平成26年3月15日(土) 13時～16時
 場所 札幌市中央区北2条西7丁目
 容器 「力」だめし200問実施。様々な分野から出題されます。

内会

日時 平成26年3月15日(土) 13時～16時
 場所 札幌市中央区北2条西7丁目
 参加費 無料
 申込方法 初めて参加される方は前日までに電話でお申し込みください。
 お問い合わせ 北海道漢字同好会 事務局
 TEL/FAX 011-691-5123
 Eメール kantoku0764@nifty.com

福島県漢字同好会

3月例会・学習会

日時 平成26年3月2日(日) 14時～
 場所 郡山市民交流プラザ 第1会議室
 申込方法 無料
 お問い合わせ 当日直接会場にお越しください。

福島県漢字同好会 総会

日時 平成26年4月6日(日) 14時～
 場所 郡山市民交流プラザ 第1会議室
 申込方法 無料
 お問い合わせ 福島県漢字同好会 総会

4月例会

日時 平成26年4月20日(日) 10時～12時
 場所 東新潟ショッピングセンター(万代市民会館2階)
 TEL 0950-00082
 新潟市中央区東万代町9番1号
 演題 「身の回りの将棋用語」
 講師 伊賀仁氏
 聴講料 ● 事務局 太田 090-8640-8761

石川漢字友の会

平成26年2月例会 講演会

日時 平成26年2月23日(日) 13時30分～15時
 演題 「北京・故宮博物院所蔵の神品」
 講師 三田良信氏
 申込締切日 平成26年2月13日(木)

平成26年3月例会 講演会

日時 平成26年3月23日(日) 13時30分～15時
 演題 「映像に依る漢字」、その『漢詩』『漢文』への道
 講師 宮前アラタ
 申込締切日 平成26年3月13日(木)

日時 平成26年3月21日(土) 13時～
 場所 金沢市南町2-1
 申込方法 ハガキ、FAX、又はEメールでお申し込みください。(電話での連絡は遠慮願います。)
 お問い合わせ 北國新聞会館10階108教室
 TEL 0920-0919
 FAX 076-260-3427
 Eメール ishikawa-kanji@po5.nsk.ne.jp

答え：
俎

故事・成語・諺
 穴埋めパズル

- ⑩ 身み から出た 鑄さび
- ⑨ 尾お に鰐ひれ が付く
- ⑧ 日ひょう に瘤こぶ の上の駒こま
- ⑦ 瓢箪ひょうたん から 駒こま
- ⑥ 鎬うだつ を削る
- ⑤ 檻ひょうが が上がらない
- ④ 囊のう 中の錐きり
- ③ 脍ほぞ をかむ
- ② 蜕えん の契り
- ① 鸳鴦おうの いの

まないた

お問い合わせ ● 福島県漢字同好会 024-923-1078

会員通信への 投稿募集中！

ご感想・ご投稿をお寄せ頂いた方に抽選5名
漢検オリジナル消しゴムをプレゼント!!

会員通信を充実させるため、会員の皆様から積極的な投稿をお待ちしています。

●常時募集

(掲載できかねる場合もございます)

一級に初めて合格しました！

この一年で難関の一級に初めて合格した方の喜びの声と合格のポイントを紹介します。

以下の項目に沿って原稿をお書きください。

項目 ● ①いつ合格したか

②何回目の挑戦での合格だったか

③合格に向けて工夫したこと・勉強方法等、励みになつたこと

④合格したときの気持ち・感想

⑤今後の目標

対象 ● 平成24年度第3回(2月)～平成25年度第3回(2月)の検定で初めて一級に合格された方

字数 ● 項目①～⑤までで250字以内

漢字・日本語に関するお薦めの書籍紹介

書名・著者名・出版社名・発行年を明記して、お薦めの理由を250字以内にまとめてお送りください。

漢字に関するパズル・クイズ

子供からお年寄りまで楽しめる面白い漢字パズルを募集します。問題と解答を必ずセットにしてご投稿ください。
(未発表作品に限ります)

例 ● 漢字クロスワードパズル、子供向け漢字クイズ(学習漢字のみ使用)、難読漢字パズル等

漢字一字に込める想い

自分の好きな漢字、自分にとって思い出深い特別な漢字など、漢字一字に込められた想いについてのショートエッセイを募集します。その漢字一字と漢字にまつわるエピソードを、タイトルを必ず添えて500字以内(タイトルを含む)でお書きください。

投稿方法

原稿とともに会員番号、氏名(ベンネームで掲載希望の場合はベンネームも添えること)、電話番号を明記し、郵便・FAX・Eメールでお送りください。
※Eメールの場合は原稿書式を「Microsoft Word」もしくは「一太郎」とし、添付ファイルでお送りください。

締切日

2014年3月31日(月)(協会必着)

投稿先

郵送 〒600-8585
京都市下京区烏丸通松原下る五条烏丸町398
公益財団法人 日本漢字能力検定協会
漢検生涯学習ネットワーク担当

FAX 075-352-8310
Eメール lifelong@kanken.or.jp

すべての投稿を掲載できるわけではありません。原稿はこちらで一部割愛・校正させていただくことがあります。

日本漢字能力検定 平成26(2014)年度 個人受検 検定日程

| | 検定日 | 申込受付開始日 | 申込締切日(協会必着) |
|-----|-----------------|---|----------------|
| 第1回 | 平成26年 6月22日(日) | 平成26年 3月1日(土) | 平成26年 5月22日(木) |
| | | ※ただし、書店での申込受付は平成26年5月19日(月)まで 書店での支払い後、願書の郵送は平成26年5月22日(木)協会必着 | |
| 第2回 | 平成26年 10月26日(日) | 平成26年 7月1日(火) | 平成26年 9月26日(金) |
| | | ※ただし、書店での申込受付は平成26年9月22日(月)まで 書店での支払い後、願書の郵送は平成26年9月26日(金)協会必着 | |
| 第3回 | 平成27年 2月 8日(日) | 平成26年 11月1日(土) | 平成27年 1月 8日(木) |
| | | ※ただし、書店での申込受付は平成27年1月5日(月)まで 書店での支払い後、願書の郵送は平成27年1月8日(木)協会必着 | |

- 申込締切日(協会必着)を厳守してください。
- 申込締切日以後に願書が到着した場合や、検定料の支払期限が過ぎた場合は受け付けできません。



公益財団法人 日本漢字能力検定協会 本部 〒600-8585 京都市下京区烏丸通松原下る五条烏丸町398

※「漢字検定」「漢検」は登録商標です。無断転載・コピー不可。

インターネットで漢検情報を!! 漢検 検索 <http://www.kanken.or.jp/>



0120-509-315

月～金9:00～17:00(祝日・年末年始を除く)
※検定日とその前日にあたる土・日は窓口を開設
※検定日・申込締切日は9:00～18:00

